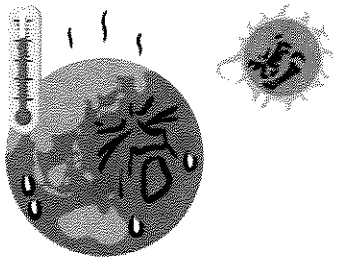
2026年　矢向あけぼの保育園だより

6月に入り、いきなり台風の来るという災害にみまわれました。警戒レベルの扱いが変わったと同時期でしたので、警報の見方もわかりにくい所もあったかと思います。朝、預けてすぐに警戒レベル発令でしたので、大雨降る中の登降園になり対応の難しさを感じています。ご協力いただいた保護者の皆様に、感謝をお伝えしたいと思います。

今年も猛暑・暑い日が増えています。

「6 月に台風が本州まで来るのは異常？」「暑い日が年々、早くなっていない？」など、**地球温暖化**が原因であるといわれています。確かに、地球温暖化の問題は深刻です。温室効果ガスと言われている、二酸化炭素など産業革命以前は約 280ppmだったものが 2023 年には 420ppmと急激に増えていますし、その増え方も、この 10 年で加速しているといわれています。温室効果ガスがないと、地球の平均気温はマイナス 19℃前後といわれているので、大気中になくてはならない存在ですが、増えすぎてしまった状況への対策が急がれるのでしょう。各国で温室効果ガスを減らす努力が求められています。



ヒートアイランド現象も猛暑日の増加に拍車をかけています。エアコンや自動車などの人口排熱が増えた事、建物の密集、アスファルトやコンクリート面が増え、熱が逃げにくくなっているからと言われています。気象庁によりますと東京都心は、過去 100 年間で平均気温が約3℃上昇しているようです。猛暑日や熱帯夜の増加で熱中症のリスクもあがりますし、健康被害の懸念もでてくるなど、都市化が進むほど悪循環が広がっていく結果になっています。健康を害するほどの気温ですと、エアコンの使用があがります。日本は、エネルギー消費大国ともいわれて一人当たりの電力消費量は、世界で第4位ぐらいになるそうです。省エネルギーの製品をたくさん開発し利用効率がはかられていても、このような状況になっています。

温室効果ガスは、エネルギーの消費率と連動します。電気を生み出すため、化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出している為です。車のガソリンが燃えるのも、温室効果ガスが増える原因です。

そして、二酸化炭素対策では、緑化を進めていくのも効果があると言われていますが、日本の街路樹は今、減少しています。ピークの 2002 年の 679 万本から 2022 年には 629 万本となり、50 万本減っています。日本の街路樹の多くは、1960 年代～1970 年代に大量に植えられたのだそうです。50 年が経過し老木化・巨木化して、かえって事故のリスクが上がっています。樹の維持管理するためのコストが自治体の負担に大きくのしかかり、伐採せざるおえない状況になっています。毎年、大きな台風が上陸するのも原因の一つだそうです。他の国では、「命のインフラ」として植樹を増やしています。

エネルギー消費大国の私たちは、少しでも地球改善に向けて考えていかなくてはいけないのだと思います。身近なところでは、使わない部屋や電化製品の電源を消す、ゴミを減らす、庭木を増やすなど、意識を変えるだけでできる事があります。様々な悪循環が次の世代の生きずらさに、ならないように、大人ができることから気をつけて、いきたいですね。

園長　飯田　雅美